

令和7年度 昭和小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標(目指す児童像含む)

(1)基本目標

国際社会の中で、日本人としての自覚を持って生きようとする、心身ともに健康でたくましく、創造力と実践力に満ちた、心豊かな児童の育成を目指す。

(2)具体目標(具体的な児童生徒像など)

- ① 心豊かで思いやりのある子【徳】(やさしい子)
- ② 自ら学び自分をのばす子【知】(よく学ぶ子)
- ③ 健やかでたくましい子【体】(元気な子)

2 学校経営の理念(目指す学校像含む)

(1)基本理念

誰もが安心して学べ、活力にあふれる学校で、未来を担う児童を育みます。

(2)校訓(昭和小三つの教え)「本気で学べ 元気で遊べ 正しく生きよ」

3 学校経営の方針(中期的視点) ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1)確かな学力と豊かな心を育む教育を進める

(2)教職員がいそいそと勤務できる環境を整え、信頼される教職員を育てる

(3)地域とともにある学校づくりを進める

[星が丘地域学校園教育ビジョン]

『未来を見つめ、主体的に生き抜く力の育成』

～認め合い、学び合い、高め合う児童生徒を育てる取組をとおして～

4 教育課程編成の方針

(1)本校教育課程は、日本国憲法・教育基本法・学校教育法及び同施行規則、小学校学習指導要領、並びに県の方針や「第2次学校教育推進計画(うつのみやいきいき学校プラン)」・「第2次宇都宮市学校教育スタンダード」・「星が丘地域学校園教育ビジョン」に基づき、創意ある教育課程を編成する。

(2)本校教育目標・経営方針や努力点・学校課題等を踏まえ、児童の実態・特性、学校の施設・設備、職員組織の実態等を十分考慮して、心豊かでたくましく生きる児童の育成を目指して編成する。

(3)新学習指導要領及び宇都宮市小中一貫教育の趣旨を生かし、確かな学力を身に付けるための適正な時数の確保に努める。また、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力を一人一人の児童が確実に身に付けられるようにすることを目指して編成する。

(4)各教科・道徳・総合的な学習の時間等、相互の関連を図った系統的・発展的な指導を心掛け、児童の自主的・実践的活動や体験的な活動を多く取り入れた特色ある教育活動が展開できるよう編成する。なお、「社会に開かれた教育課程」の観点から地域等の意見の反映にも努めたい。

5 今年度の重点目標(短期的視点) ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1)学校運営

- ・児童の達成感や自己肯定感を高めるための指導の充実<<褒める取組の推進>>
- ・教職員が教育活動に専念するための業務改善<<業務の効率化と業務分担の明確化>>
- ・地域の教育資源を活用できる体制づくり<<家庭や地域等との連携・協働>>

(2)学習指導

- ・主体的・探究的・協働的に学ぶ児童の育成

(3)児童生徒指導

- ・自分を大切に、他者もかけがえのない存在として大切にできる態度・実践力の育成

(4)健康(体力・保健・食・安全)

- ・自他の命や健康の大切さを知り、健康・安全・体力の向上に心がける態度・実践力の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1-⑴ 確かな学力を育む教育の推進	<p>A1 児童は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は, 学習課題を解決するために, 友達と話し合ったり, 必要な情報を集めたりしながら, じっくり考え, 進んで学習に取り組んでいる。」 における肯定的回答 (⇒児童 85%以上) (⇒教職員 85%以上)</p>	<p>① 学習に関する基本的な行動様式について共通認識を図り, 学年の発達段階や実態に応じた指導を繰り返す行う。</p> <p>② 授業において, 友達と積極的に関わり合いながら児童一人一人の思いを大切にさせたり, ICT 等を活用したりして問題解決に取り組めるように支援する。</p> <p>③ 主体的・対話的で深い学びの実現に向け, 授業研究会や授業を相互に見合う機会を充実し, 指導力の向上に努める。</p>	B	<p>【達成状況】 児童生徒は91.4%, 教職員100%と数値目標を上回っている。 【次年度の方針】 ①②③の取組を継続して実施する。</p>
1-⑵ 豊かな心を育む教育の推進	<p>A2 児童は, 思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は, 誰に対しても, 思いやりの心をもって優しく接している。」 における肯定的回答 ⇒児童 90%以上 ⇒教職員 90%以上</p>	<p>① 体験活動と関連を図った道徳科の授業を実施し, 生命や人権を尊重する心や, 人を思いやる心などを涵養する。</p> <p>② 人権教育年間指導計画に基づき, 全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。</p> <p>③ 児童会活動や縦割り清掃など学年を越えた異学年活動を通して, 相手の立場を考えて思いやる心を育む。</p>	B	<p>【達成状況】 肯定的回答は, 児童が93.2%, 教職員が100%と数値目標を上回っている。 【次年度の方針】 ①②③の取組を継続して実施するとともに, 児童会活動等における異学年交流を通して, さらに思いやりの心を育てていく。</p>
	<p>A3 児童は, 目標に向かってあきらめずに, 粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は, 目標に向かってあきらめずに, 粘り強く取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>①各教科の授業や各種学習カード等において, 児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに, 目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。</p> <p>②道徳の授業において, 目標をもって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに, そうした実践に向けた意欲を高める。</p> <p>③児童の自己肯定感を高められるよう, 児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに, 担任も「認める・褒める・励ます」指導に努める。</p>	B	<p>【達成状況】 児童生徒は89.6%, 教職員100%と数値目標は上回ったが, 児童の数値は昨年度と比べ, 2.3ポイント下回った。また, 保護者の数値も昨年度から7.9ポイント下回った。 【次年度の方針】 ①②③の取組を継続して実施する。 特に, 教職員は児童が粘り強く取り組む姿を称賛し, 保護者にも伝えて同歩調で称賛してもらえるよう, 連携を図る。</p>

<p>1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進</p>	<p>A4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、健康や安全に気を付けて生活している。」 における肯定的回答 ⇒教職員 90%以上 ⇒保護者 90%以上</p>	<p>① 児童が自分の健康に気を付けて自ら健康を管理できるよう、学級活動、体育、学校行事と関連を図った保健教育や日常生活指導を行う。</p> <p>② 学校給食と各教科等との関連を図った指導のもと、栄養のバランスのとれた食事や望ましい食習慣の形成を図る。</p> <p>③ 危機を予測し自らの命を守り抜く行動力を育成するため、日常指導における安全指導を充実するとともに、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施する。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答は教職員95.5%、保護者が87.0%と、数値指標を上回っているが、どちらの数値も昨年度と比べて下回った。 【次年度の方針】 雷対策や猛暑対策なども含め、地域や保護者と連携しながら、児童の安全確保に努めるとともに、①②③の取組を継続して実施し、児童が自分の健康や安全を守ろうとする意識を高める。</p>
<p>1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p>	<p>A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、自分の良さや考えを生かしたり、周りと協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている。」 における肯定的回答 (⇒児童 85%以上) (⇒教職員 85%以上)</p>	<p>① 児童の自分のよさや成長を実感し協力して生活できるように、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も「認める・褒める・励ます」指導に努める。</p> <p>② 授業の振り返り活動を重視し、児童の良さや努力したことを自覚できるような自己評価、相互評価の場を設ける。</p> <p>③ 委員会活動や係活動、当番活動に協力して取り組もうとする態度を育成する。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答は、児童が91.7%、教職員が95.5%と数値目標を上回っているが、どちらの数値も昨年度と比べ下回った。 【次年度の方針】 星が丘地域学校園教育ビジョン「褒める種をまき、認めて褒めて励ます」指導を意識して、①②③の取組を継続して実施する。</p>
<p>2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進</p>	<p>A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、英語を使ってコミュニケーションしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 外国語活動・外国語の授業において活動の目的を明確にし、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。</p> <p>② 外国語では、ALT との交流やデジタル教科書等の活用を通して、コミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>③ 外国語活動・外国語の授業に関する校内研修や授業を相互に見合う機会を充実して指導力の向上を図る。</p>	<p>【達成状況】 児童生徒は88.8%、教職員100%と数値目標を上回っている。 【次年度の方針】 活動の目的を明確にし、積極的にコミュニケーションが取れるように①②③の取組を継続して実施する。</p>

	<p>A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上</p>	<p>① 生活科、社会科、特別な教科道徳、総合的な学習の時間の授業や、市内や地域での校外学習等において、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導に努める。</p> <p>② 教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等についての理解を深めるよう努める。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 肯定的回答は、児童が91.4%と数値目標を上回っている。 【次年度の方針】 ①②の取組を継続して実施する。</p>
<p>2-(2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進</p>	<p>A8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 における肯定的回答 (⇒児童 85%以上) (⇒教職員 85%以上)</p>	<p>① 授業においてデジタル機器を積極的に活用することで、児童がパソコンや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、市の教育サイトを活用しながら、デジタルシチズンシップを醸成できるようにする。</p> <p>② 教科書変更に伴う学校図書館の年間指導計画の修正をしながら各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書 of 整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。</p> <p>③ 学級文庫や読書タイムの充実、学級単位での図書室利用、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 児童生徒は85.3%、教職員100%と数値目標を上回っているが児童と保護者の数値は昨年度と比べ、下回った。 【次年度の方針】 市のデジタルシチズンシップ教育サイトを活用しながら①の取組を継続して実施する。 特に図書の活用を意識しながら、②③④の取組を継続して実施する。</p>
<p>2-(3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進</p>	<p>A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 各教科や総合的な学習の時間における環境教育等を通して、身近な事柄から「持続可能な社会」への関心や環境問題への関心を高め、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。</p> <p>② 東日本大震災や田川の氾濫等、災害の具体事例から学ぶ機会を設け、防災教育を充実する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 肯定的回答は、児童生徒が88.1%、教職員が86.4%と数値指標を上回っているが、どちらの数値も昨年度と比べると下回った。 【次年度の方針】 ①②の取組を継続して実施するとともに、各委員会活動において、SDG'sを意識した取組を実施し、学校全体に広げる。</p>

<p>3-(1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進</p>	<p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 90%以上</p>	<p>① 特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に関する共通理解を十分に図り、スクールカウンセラーや外部の相談機関を活用するなど、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。</p> <p>② 特別支援学級の児童はもとより、通常学級においても、必要に応じて個別の支援計画を作成し、合理的な配慮と個に応じた適切な指導を行う。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 肯定的回答は、教職員が100%と数値指標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ①②の取組を継続して実施するとともに、特別な支援が必要な児童に関する共通理解を全職員で十分図り、組織的な支援を行っていけるようにする。</p>
<p>3-(2) いじめ・不登校対策の充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 における肯定的回答 ⇒児童 90%以上 ⇒保護者 80%以上</p>	<p>① 学級活動、道徳科の授業等を通して、人を思いやることや人権を尊重することの大切さを指導するとともに、家庭とも連携して日常生活の中でいじめが許されない行為であることを繰り返し指導する</p> <p>② 児童会が主体となり、児童が自ら「いじめゼロ運動」を推進できるよう支援し、望ましい児童集団の育成に努める。</p> <p>③ 定期的なアンケートや教育相談等を通して児童の心の状態を共感的に理解した上で、学校いじめ防止基本方針に基づき、管理職・児童指導主任を中心とした組織的な対応によりいじめの早期発見、早期解消を図る。</p> <p>④ いじめ防止に係る具体的な児童の活動などを学校だよりやホームページ等を活用して積極的に情報発信し、保護者への啓発を充実させる。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 肯定的回答は、児童が98.6%、保護者が92.9%と数値指標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ①②③④の取組を継続して実施し、未然防止に努めるとともに、いじめと思われる事案が見られた場合には、早期発見、早期解消のために組織的な対応を迅速に行う。また、いじめに対する取組について保護者への啓発をさらに充実させていく。</p>

	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上</p>	<p>① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も「存在を認める、努力を褒める、挑戦へと励ます」指導に努める。</p> <p>② 教育相談、アンケート、QU調査等の結果を活用し不適応傾向のある児童の早期発見と不登校の兆候が見られる児童に係る校内全体の情報共有を図る。</p> <p>③ 不登校対策の手引書に基づき、適切な対応を行うとともに、居心地のよい学校づくりに努める。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答は、児童が96.8%と数値指標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ①②③の取組を継続して実施する。配慮児童等に対する教職員の「受け入れる姿勢」が、児童により影響を与えているので、引き続き「存在を認める、努力を褒める、挑戦へと励ます」指導に努めていく。</p>
<p>3-③ 外国人児童生徒等への適応支援の充実</p> <p>3-④ 多様な教育的ニーズへの対応の強化</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、困ったときに相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとしていたりして、私たちが楽しく学校生活を送れるようにしている。」 における肯定的回答 (⇒児童 90%以上) (⇒教職員 90%以上)</p>	<p>① 児童が生き生きと活動できる学校行事や児童会集会活動等の実施に努める。</p> <p>② 児童会活動において、児童の主體的な活動を重視するとともに、縦割り班活動を積極的に実施する。</p> <p>③ 授業や様々な活動を通して、教職員が児童の「存在を認める、努力を褒める、挑戦へと励ます」指導を意識的に行い、児童の自己肯定感を高めていく。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答は、児童が96.8%、教職員が100%と数値指標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ①②③の取組を継続して実施する。「存在を認める、努力を褒める、挑戦へと励ます」指導を意識的に行い、児童の自己肯定感を高めていけるようにする。</p>
<p>4-① 教職員の資質・能力の向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 における肯定的回答 ⇒児童 90%以上</p>	<p>① 教材研究に基づく分かりやすい授業の展開とともに、授業の中でつまづいている児童への状況に応じた支援に努める。</p> <p>② 朝の学習や家庭学習を通して復習する機会を設け、基礎基本の定着を図る。</p> <p>③ 分かりやすく楽しい授業を目指し、授業研究会や授業を相互に見合う機会を充実する。</p>	<p>【達成状況】 児童生徒は95.7%と数値目標を上回り、高い数値指標を示した。</p> <p>【次年度の方針】 ①②③の取組を継続して実施するとともに、少人数、習熟度別、ITを活用した一人一人に応じた指導の充実に努める。</p>

4-② チーム力の 向上	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 「チーム昭和」の合言葉のもと、学校の諸課題への対応や、学校行事の準備・運営等に、教職員が相互に助け合いながら一丸となって取り組むよう努める。</p> <p>② 教職員の協働性を高めることに視点を置き、教職員の得意分野や持ち味が生きる組織運営に努めるとともに、困難を感じる業務について気軽に相談し、助け合える雰囲気大切にす。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%と数値目標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ①②の取組を継続して実施する。</p> <p>B</p>
4-③ 学校における 働き方改革 の推進	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 80%以上</p>	<p>① 学校の働き方改革の視点に立って教職員一人一人が、勤務時間を意識し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。</p> <p>② 教職員の負担軽減に向け、学校組織運営の改善や、各種行事等の実施方法の改善を行う。</p> <p>③ 学習情報システムをはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務を効率的に進める。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%と数値目標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ①②③の取組を継続して実施する。</p> <p>B</p>
5-① 全市的な学校 運営・教育活動の 充実	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 星が丘地域学校園ビジョンに基づき、自己肯定感を高める取組を重点として小中一貫教育・地域学校園を推進する。</p> <p>② 乗り入れ授業、教科分科会、6年生の進学先中学校訪問等を、目的を明確にして効果的に実施する。</p> <p>③ 地域学校園事務室や、学校一人配置職員の分科会を通して、学校園内の相互支援体制を充実する。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%、保護者が87.1%と数値目標は上回っているが、保護者の数値は昨年と比べ、3.8ポイント下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ①②③の取組を継続して実施するとともに、実施している内容を地域や保護者に向けて周知する。また、小中合同あいさつ運動の推進や星中ボランティアの活用を図る。</p> <p>B</p>
5-② 主体性と独自性を 生かした学校経営 の推進	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運</p>	<p>① 昭和小学校地域協議会(夢工房)を定期的開催し、学校経</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答は、保護者が96.3%、地域住民が100%と数値目標を上回っ</p> <p>B</p>

<p>5-(3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p>	<p>営の充実を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 における肯定的回答 ⇒保護者 85%以上 ⇒地域住民 80%以上</p>	<p>営方針への保護者、地域住民の意見反映や、学校関係者評価の実施などを行っている。</p> <p>② 校外での体験活動時の安全確保や、授業への支援などへの協力、参画を得て、学校支援ボランティアを有効に活用している。</p> <p>③ 家庭や地域社会との連携による体験的活動「昭和小インターシップ」を実施し、キャリアパスポートを効果的に活用することで、児童が将来の夢や希望をもったり、実現に向けて努力したりする態度を育成する。</p>	<p>ている。 【次年度の方針】 ①②③の取組を継続して実施する。</p>
<p>6-(1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 90%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 毎月、各教室、特別教室、廊下、体育館等を、チェック項目に基づく安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。</p> <p>② 避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にするとともに、その都度危機管理マニュアルを見直し整備する。</p> <p>③ 感染症予防対策、熱中症予防対策など、時期に応じた保健教育・保健管理に努める。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答は、教職員が100%、保護者が96.3%と数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 ①②③の取組を継続して実施する。</p> <p style="text-align: center;">B</p>
<p>6-(2) 学校のデジタル化推進</p>	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業(授業準備も含む)を行うための準備ができている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、授業(授業準備を含む)や業務に、デジタル※を積極的に活用している。 ※デジタル……一人一台端末、学校用グループウェア、校務支援システム、デジタル連絡ツールなど」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 児童がパソコンや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用できるように、教員が研修を受けたりICT支援員と連携を図って指導にあたりたりする。</p> <p>② コンピュータやデジタル機器を、授業準備や成績処理、連絡などの業務に活用する。</p> <p>③ 校内研修を短時間で複数回実施し、教師の基礎的なデジタル機器活用能力の向上に努める。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%と数値目標を上回っている。 【次年度の方針】 ①②③の取組を継続して実施する。</p> <p style="text-align: center;">B</p>

	<p>B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒地域住民 85%以上</p>	<p>① 年間を通して、児童会活動による主体的なあいさつ運動を展開し、認め・褒め・励ますような場を設ける。</p> <p>② 学年の発達段階や実態に即しながら、相手に伝わるようなあいさつや、その場にふさわしい言葉づかいができるよう継続的な指導を行う。</p> <p>③ 自ら進んであいさつすることや、その場にふさわしい言葉づかいについて、家庭での指導を保護者に働きかける。</p> <p>④ 朝以外のあいさつや保護者、地域の方へのあいさつも主体的にできるように、児童の意識づけを図る。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答は、児童が90.3%、地域住民が86.7%と数値指標は上回っているが、児童、教職員、保護者、地域住民の全ての数値において昨年度を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ①②③④の取組を継続して実施する。地域協議会と連携し、あいさつ運動を盛り上げ、児童の時と場に応じたあいさつの習慣付けを図る。</p> <p style="text-align: center;">B</p>
<p>小・中学校、地域学校共通</p>	<p>B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、きまりやマナーを守って生活をしている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 「昭和小10の約束」に基づく全校共通理解のもとで、学年の発達段階に応じながら基本的な生活習慣の定着を図る。</p> <p>② きまりやマナーを守って行動していることを、児童が相互に認め合う場や教師が称賛する機会を数多く設け、意識付けしながら実践意欲を高める。</p> <p>③ 校外でもきまりやマナーを守れるよう、「昭和小よい子のきまり(家庭版)」をもとに地域や保護者と連携を図りながら、児童の規範意識高められるように指導する。</p> <p>④ 児童会が中心となって呼び掛けたりするなど、児童が主体的に規範意識を高めようとする活動の展開を図る。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答は、教職員が95.5%、保護者が93.3%と数値目標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ①②③の取組を実施するとともに、きまりやマナーを守れるように、発達段階に応じて学年・学級で定着を図り、児童の規範意識をさらに高められるようにする。</p> <p style="text-align: center;">B</p>

本校の特色・課題等	<p>B3 児童は、進んで運動している。</p> <p>【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、体育の授業や休み時間に進んで運動している。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 楽しさと運動量のある体育の授業実践に努める。</p> <p>② 各種学習カードを活用することで、児童が進んで運動に親しむ機会を充実する。</p> <p>③ 積極的に外遊びを奨励するとともに、児童会(運動委員会)の活動などを通して、運動の日常化を図れるようにする。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 肯定的回答は、児童生徒が84.5%、保護者が87.8%であり、数値指標を上回った。 【次年度の方針】 ①②③の取組を継続して実施する。</p>
	<p>B4 教職員は、児童のよさや努力を「認める・褒める・励ます」指導をおこなっている。</p> <p>【数値指標】 学校独自アンケート 「先生は、自分のよいところを見つけて、ほめてくれる。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も「認める・褒める・励ます」指導に努める。</p> <p>② 教職員が相互に、児童のよさや努力していることなどを伝え合うことにより、担任等が児童を認め励ます機会を充実する。</p> <p>③ 児童のよさや児童が努力したことを保護者に積極的に伝える。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 児童生徒は93.5%、教職員100%と高い数値指標を示し、数値目標を上回っている。 【次年度の方針】 特に「認める」を意識しながら①②③の取組を継続して実施する。</p>
	<p>B5 学校は、八幡山を活用した教育活動を通して、特色ある学校づくりを推進している。</p> <p>【数値指標】 学校独自アンケート 「学校は、八幡山を利用した行事等を行い、特色ある学校づくりを進めている。」 における肯定的回答 ⇒児童 90%以上 ⇒保護者 90%以上</p>	<p>① 八幡山ウォークラリー大会、山野横断持久走大会などを、八幡山の施設等を有効に活用して実施する。</p> <p>② 生活科、総合的な学習の時間などの年間指導計画に位置付けて、八幡山に関わりながら学習する機会を計画的に設ける。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 肯定的回答は、児童が95.7%、保護者が100%と数値目標を上回っている。 【次年度の方針】 ①②の取組を継続して実施する。</p>

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

項目別に、顕著な特徴が見られるもの(昨年比・市平均と比べ、3ポイント以上の差が半数以上で見られる項目)は、以下の通りである。

- A3「児童生徒は、目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組んでいる」で、教職員は昨年比を4.5ポイント、市平均を4.2ポイント上回ったが、保護者は昨年比を7.9ポイント、市平均を3.2ポイント下回った。児童が粘り強く取り組む姿を保護者に伝えきれていなかったことが一因と考えられる。

- ・ A6「児童生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている」で、児童は昨年比を4.2ポイント、市平均を6.5ポイント上回り、教職員も昨年比を4.3ポイント、市平均を4.8ポイント上回った。活動の目的を明確にし、積極的なコミュニケーションを図る取組や、日常的なALTによる児童の下校見守り等の効果が表れた結果と考えられる。
- ・ A8「児童生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している」で、児童は昨年比を3.8ポイント、保護者は昨年比を5.5ポイント、市平均を3.9ポイント下回った。デジタル機器活用の日常化は、目に見えて進んでいることから、図書の活用に認識の差が出ていると考えられる。
- ・ A11「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している」で、保護者は昨年比を4ポイント、市平均を10.9ポイント、地域住民は市平均を4.5ポイント上回った。いじめに係る指導が児童に浸透していることが、保護者や地域住民の理解を得ていると考えられる。
- ・ A16「勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」で、教職員の結果が昨年比を13ポイント、市平均を8.1ポイント上回った。さくら連絡網・ミライム・スクールタクト・キャンバ等のアプリ活用度の上昇や業務の見直しによる改善が進んだことが伺える。
- A17「学校は、小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている」で、児童・教職員は昨年比を3ポイント以上上回ったが、保護者は昨年比を3.8ポイント下回り、地域住民は市平均を8.2ポイント下回った。実際に活動に参加したり、実施の様子を見たりしている児童・教職員と、実際の様子が見えにくい保護者・地域住民の意識の差が表れたと考えられる。
- ・ B1「児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている」で、市平均と比べて、教職員は13.2ポイント、保護者は4.3ポイント、地域住民は6ポイント下回り、さらに、地域住民は昨年比を13.3ポイント下回った。児童は昨年比・市平均と大きな差がないことから、児童と大人の意識の差があり、児童が実際には行っているあいさつの声が小さく、回りに伝わりにくい状況にあることも考えられる。

7 学校関係者評価

- ・ 1年を通し、学校と地域がつながることで、子供たちの登下校の安心安全と充実した学校生活の一助となることができよかった。今後も継続したい。
- ・ 大人もあいさつをしない人が多い昨今、大人側の努力が必要と感じる。こちらからあいさつをすれば元気に返してくれる子どもが増えていると感じるのは、学校のあいさつ運動の成果である。今後も継続・充実させていくとよい。
- ・ 家庭でのタブレット使用時間や使用ルール等も再考する必要があるのではないか。
- ・ 猛暑日の下校時バス利用について、よく検討する必要があると考える。
- ・ 学校マネジメント等で自己評価をし、反省と改善を繰り返す機会をもつことは、児童にとってもよい学びであると思う。

8 まとめと次年度へ向けて(学校関係者評価を受けて)

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- A3「児童生徒は、目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組んでいる」では、星が丘地域学校園教育ビジョン「褒める種をまき、認めて褒めて励ます取組」の一環として、児童の努力の結果だけでなく、その過程を保護者と共有できるよう、連携を進めたい。
- ・ A8「児童生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している」では、図書の効果的な活用の工夫や図書に関する活動の周知を図ることに努める。
- ・ A16「勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」では、引き続き工夫改善を進め、教職員が児童と向き合う時間の捻出に努める。
- A17「学校は、小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている」では、実施の様子を学校だよりやホームページ等で広く知らせるとともに、保護者や地域住民にも活動に参加してもらえるような仕組み作りの工夫に努める。また、星中ボランティアの積極的な活用を検討していきたい。
- ・ B1「児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている」では、保護者や地域の力も借り、大人が率先して模範となり、気持ちよく進んであいさつができる環境整備に努める。